

会 議 録

会議の名称		令和6年度第2回虹色学園コミュニティ・スクール推進会議		
開催日時		令和6年8月6日（火）開会 14:00 閉会 15:45		
開催場所		つくば市立研究学園中学校多目的室1		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	佐久間 健、野尻 敏弘、楨 幸子 三田部 勇、川村 靖子 研究学園中学校：校長 板谷 亜由美、教頭 小飼 美保 教務主任 原口 知武 研究学園小学校：校長 岡田 太郎、教頭 細田 愛 教務主任 土田 剛士		
	その他			
	事務局	教育局生涯学習推進課 参事：山口 健次 教育局生涯学習推進課 係長：飯島 遊 教育局生涯学習推進課 社会教育主事 村上 和宏 教育局生涯学習推進課 地域連携教育指導員 酒井 和宏		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由				
議題		熟議「みんなの幸せを大切にし、自ら考え行動できる児童生徒の育成のために、学校、保護者、地域ができること」		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会議次第	1 開会 2 挨拶 3 前回の議事の確認 4 協議：熟議「みんなの幸せを大切にし、自ら考え行動できる児童生徒の育成のために、学校、保護者、地域ができること」 5 その他 ・コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について			

<審議内容>

1 開会

三田部座長：令和6年度第2回虹色学園コミュニティ・スクール推進会議を開会します。会議を進行するにあたり書記を虹色学園の槇さんをお願いします。
→承認

2 挨拶

三田部座長：虹色学園のための協議をよろしくお願ひいたします。
板谷委員：いろいろな意見をいただければ幸いです。

3 前回の議事録の確認

野尻委員：・議事録公開について発言者の名前を公開されるのか？

事務局：→出席者は公開、発言者については検討し、決まり次第、回答。

三田部座長：・数値目標について

岡田委員：→教育での数値目標はなかなか難しい。1、2年では数値が表れにくい。キーとなる数値はあって良い。子どもや状況も変わるので、数値目標として、細かくやっていくのは難しい。長い目で見てもらえるよう今後も継続的に検討。

4 協議

【熟議】「みんなの幸せを大切にし、自ら考え行動できる児童生徒の育成のために、学校、保護者、地域ができること」

(1) グループごとに話し合う（パワーポイントにまとめる）

グループ ①保護者 ②学校関係者 ③三田部座長、川村委員

(2) 情報共有及び意見交換

30分アイディアを出し合う、話し合い後、発表

② 学校

- ・自律を伴う自立（児童が中心となる授業）・教師は支える側（伴走者）を目指す
- ・低学年についても手をかける事、声をかける事を少なくして待つ、聞き方の工夫
- ・異学年交流を増やし、低学年の意見を吸い上げていく
- ・ルールメイキング、子どもたちが主体的に話し合いをすることで自立する
- ・話を否定しないこと、認め合えることが幸せである。

佐久間委員：・生徒指導、授業の中で手を出しすぎないようにということが分かった。

佐久間委員：・教師の役割

岡田委員：→子どもの成長、伴走者である。

佐久間委員：・生徒に差がある時の対応

岡田委員：→一斉指導の時は中の下に合わせていた。最近では、子どもたちの一人一人のペースに合わせて（自由進度学習）支援を工夫している。

佐久間委員：それによって、教師がやることは増えたか。

板谷委員：時間も取られていると思うが、繰り返していくうちに慣れてきている。

岡田委員：自立を促すための学びを支えているが保護者は点数を気にしているのか。

野尻委員：一般的には受験をするために、また私立を選ぶ人も多いため、他の地域に比べると点数を気にする傾向が強い。

岡田委員：自立と幸せが目標。自分で考え、自分で判断し、自分で学ぶ児童・生徒を育てたい。これからは、時代に合った、必要な知識を獲得し、新しいアイデアを作り出す力が必要。点数が一番なのか。どういう大人に育って欲しいのかに比重を置くのか。それらのバランスには悩むところがある。保護者はどのように考えているのかを知りたい。

野尻委員：点数を伸ばしてほしいという傾向は強い。小さいころから自主的にいろいろなことを探求する力を持っている子が多くなるような教育を受ければ、必然的に点がついてくる。うまくやっていけば結果的に中学校の進学率が高くなる。虹色学園がそこにフィットすると一番良い。この小中の最適な方法を模索していければいい。抵抗がある保護者もいると思うので、サポーターズからも広報などで支援していけたらいい。率直な悩みを役員会などで話合いができるとうい。

① 保護者

- ・サポーターズでやっているイベントは続ける(野球、書道など)
- ・私立高に偏りを感じる、県立の魅力はどう伝えるか
- ・受験のための授業をどうするか
- ・先生と子どもの適切な距離感、希薄になっていること。子どもの接し方、自治会がないため地域交流が少ない
- ・学校、子ども、保護者のコミュニケーションが少ない
- ・生徒との交流を保護者がとる
- ・通学のための集まりが一番のコミュニケーションになっていたのでは、連携する場がつかれるのではないか

事務局：学校に関わってくれる人の横の繋がりがあると良い。卒業された方など世代間を超えた繋がりができると良い。通学の話とかが良い例。

野尻委員：卒業した方が学校の支援活動に登録できる仕組みがあると良い。春日などの良い事例があれば教えて欲しい。

岡田委員：学校が地域のハブになる。これからの在り方に近づくのではないか。学校を介して地域と繋がる。

佐久間委員：保護者同士の繋がりが薄いので、イベントの参加を通して人間関係の繋がりを作っていく。

③ 三田部座長、川村委員

【まずは地域の方が学校、子どもたちを見る、知ることが大切】

- ・人材バンクの作成・児童クラブにおける中学生との交流イベント
- ・児童クラブのイベントに保護者の参加を促す
- ・ワールドカフェ、トークフォークダンス等による地域の方とのコミュニケーションイベント
- ・地域の方が参加できるようなイベントの開催
- ・地域を多く捉えれば、筑波大生との交流

岡田委員：学校と地域の距離があるのはコロナ禍があったから。

事務局：学校と地域、保護者が同じ目標を持つことが大事。共通目標、共通理解ができているのが素晴らしい。地域ネットワークを広げていくことが目標。例：自治体によっては、地域の方が学校行事に参加しネットワークを広げていく。コミュニティ・スクールの課題としてネットワークの軽い保護者が少ない。虹色学園はうまく連携が取れていて、様々な活動、思いが共有できていてとても素晴らしい。3月にコミュニティ・スクールの研修会があるので事例として活動の発表を協力していただけると有難い。

事務局：同じ方向に向けて共通の話し合いができていたのではないかと。3月にぜひ、サポーターズの活動を話してもらえると有難い。次の話合いの熟議のテーマを保護者からも出していただけると有難い。

小飼委員：充実した話合いができた。次回、テーマのアイデアをいただくとともに、今回の意見を元に、実現するためにはどうしたら良いか。などを話し合えるといい。

5 その他

児童クラブとサポーターズの連携（川村先生の役員会の参加など）

開催予定：3回目、令和6年11月21日(木)14時 会場：研究学園小学校
4回目、令和7年2月13日(木)14時 会場：未定

6 閉会

本日の会議の様子や写真はつくば市教育委員会ホームページ掲載予定。

、令和6年度第2回虹色学園コミュニティ・スクール 推進会議

日時：令和6年8月6日（火）

14:00～16:00

場所：研究学園中学校 会議室

次 第

1 開会

2 挨拶

3 前回の議事の確認

4 協議

熟議「みんなの幸せを大切にし、自ら考え行動できる児童生徒の育成のために、
学校、保護者、地域ができること」

5 その他

・コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について

6 閉会

虹色学園グランドデザイン2024

茨城県教育目標

ひとりひとりの能力を開発し
豊かな人間性をつちかう

じょうぶな身体をつくり
たくましい心を養う

郷土を愛し
協力し合う心を育てる

【教育理念】

- 児童生徒が今の幸せを実感できる教育活動を実践する。
- 児童生徒が将来、自立して幸せな人生を送るための力を育む。
- 1人1人に寄り添い、誰一人取り残さない。

つくば市の目標

みんなが幸せを実感できる学
園・学校・幼稚園

自己実現できる学校

みんなで支え合い、みんなが生
き生きした学校

【学園教育目標】

みんなの幸せを大切に、
自ら考え行動できる児童生徒の育成

目指す学園像

- 子どもも保護者も教職員も幸せを感じられる学園
- ・学びたくなる学園
- ・子どもが自らつくる学園
- ・挑戦が賞賛される学園

目指す児童生徒像

- 研 研究・探究に主体的に取り組む児童生徒
- が 学校の仲間の幸せを大切にしている児童生徒
- く くじけず、自立して学校生活を送る児童生徒

目指す教師像

- 人間性豊かで高い使命感のある教師
- 子どもの多様性を理解し、一人ひとりに愛情をもって寄り添える教師
- 明るく前向きで、尊敬しあい協働のできる教師

【組織目標】

- 主体的・対話的で探究的な学びの実現
- 非認知能力を育成し社会的自立を目指す教育活動の推進
- 働き方改革の推進による幸せを実感できる学びの場の確立

主体的・対話的で 探究的な学びの実現

【特色ある施策】

- 主体的な学びを促進するための「指示から問いかけ」への転換
- ワクワクが連続する学びのデザイン
- 単元のゴールの姿に向けた単元構成の工夫
- 自分の問いを立て、探り、新たな問いへとつながる学びの工夫
- 1人1台端末の創造的活用
- 授業と家庭学習の連続的学びの確立

【数値目標（80%以上）】

- 進んで授業に取り組んでいる。
- 端末を工夫して自在に使う。
- 複数単元で自分で問いを作っている。

非認知能力と社会的自立を 目指す教育活動の推進

【特色ある施策】

- デジタルの良さも生かしたリアルな体験活動の重視
- 感性を磨く芸術活動の重視
- 遊び・生活科・スタイル科と連携した感性の涵養
- ルールメイキングの推進・充実
- 対話を重視した合意形成活動の充実
- たくましく生きるための健康や体力の育成

【数値目標（80%以上）】

- 自分で考えて行動できる。
- 最後まで粘り強く取り組める。
- 体カテストA+B(45%)

働き方改革の推進による幸せを 実感できる学びの場の確立

【特色ある施策】

- 安心と信頼にあふれ、高め合う学級、集団づくり
- 試行錯誤と挑戦が賞賛される集団づくり
- 多様性を尊重した自治活動の充実
- 安全、安心な居場所づくり
- インクルーシブを意識した多様な他者に関わる学びの充実
- 働きやすさと働きがいの両立

【数値目標（80%以上）】

- 毎日が楽しいと思う。
- 自分のいいところを知っている。
- 働きがいがあり働きやすい。

小中一貫教育の推進

- 施設隣接型小中一貫校の特徴を生かした学校組織の一体化による効果的な学校経営
- 児童生徒の日常的な交流による、より多様な他者との関わりを生かしたダイバーシティかつインクルージョンな学びの推進
- 教職員の密な連携と協働による、連続的および系統的な児童生徒の学びや育ちの伴走

AIを活用した教育の創造

- 主体的・対話的で探究的な学びにAIを活用することによる個別最適な学びのバージョンアップ
- 教育と生成AIを融合させた創造的な学びの実現に向けた職員研修の充実と教育資源の発掘、活用

働き方改革の推進

- 保護者ボランティアを生かす学校運営の推進
- 環境整備に対する役割分担および簡素化
- 時間外業務時間月あたり45時間以内の徹底
- 働きがいを高めるワークライフバランスの推進

保幼小連携の充実

- 接続プログラムの充実による切れ目のない資質・能力の育成
- 交流活動や相互参観の充実による遊びから学びへの円滑な接続

特別支援教育の体制づくり

- 障害の状態や特性等に応じた指導上の配慮の充実
- インクルーシブ体制の推進と全教職員による指導体制の充実

安心・安全な学校づくり

- リスクマネジメントとクライシスマネジメントの日常的アップデートと適切な運用
- 福祉の視点を取り入れた支援体制の確立と、SC,SSWの積極的な活用

地域とともにある学校づくり

- コミュニティスクール運用を見通した地域・保護者との連携体制の推進
- 積極的な情報発信による信頼の獲得および地域との学校運営協体制の推進

会 議 録

会議の名称		令和6年度第1回虹色学園コミュニティ・スクール推進会議		
開催日時		令和6年5月15日（水）開会 9:00 閉会 11:50		
開催場所		つくば市立研究学園小学校多目的室1		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	中川西学、佐久間健、山関重人、野尻敏弘 榎幸子、三田部勇、川村靖子 研究学園中学校：校長 板谷亜由美、教頭 小飼美保、 教務主任 原口知武 研究学園小学校：校長 岡田太郎、教頭 細田愛 教務主任 土田剛士		
	その他			
	事務局	教育局 教育局長：吉沼正美 教育局生涯学習推進課 課長：澤頭由紀子 教育局生涯学習推進課 参事：山口健次 教育局生涯学習推進課 係長：飯島遊		
公開・非公開の別		<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由		つくば市情報公開上理恵第5条第1項（個人情報）に該当する情報が含まれるため		
議題		1 学校運営の基本方針について 2 学校の教育活動について 3 その他		
会議録署名人		確定年月日	年	月 日
会議次第	1 開会 2 選任通知書交付 3 教育長挨拶 4 説明事項 つくば市のコミュニティ・スクールについて 5 授業参観（小学校→中学校の順）			

6 座長・副座長の選出

7 協議

(1) 学校運営の基本方針について

(2) 学校の教育活動について

(3) その他

・コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について

8 閉会

<審議内容>

1 開会

事務局：ただ今から、令和6年度第1回虹色学園コミュニティ・スクール推進会議を開会いたします。

はじめに、会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。事務局案としてつくば市立研究学園小学校 教務主任 土田先生にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

参加委員：お願いします。

事務局：お引き受けくださりありがとうございます。よろしくお願いします。

2 選任通知書交付

事務局：始めに「選任通知書」の交付をいたします。通知書の交付は五十音順で代表者1名とさせていただきます。

(「選任通知書」を川村委員に交付)

続きまして、地域学校協働活動推進員の御紹介と委嘱状の交付を行わせていただきます。

虹色学園で、学校と地域をつなぐパイプ役となる地域学校協働活動推進員を協議した際、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者として野尻委員、榎委員を虹色学園から御推薦いただきました。地域学校協働活動推進員設置要項第3条に該当するものとして、「地域学校協働活動推進員」を委嘱させていただきます。

この推進会議は、協議会を設置するまでのおおむね1年間を予定しています。また、皆様の選任通知書については、机の上にございますので御確認ください。委員の皆様の自己紹介に関しては、この後お時間を取らせていただいております。御了承ください

3 教育長挨拶

事務局：続きまして、つくば市教育長森田から挨拶を預かっておりますので、つくば市教育局 局長 吉沼が代読いたします。

事務局：森田教育長の挨拶を代読させていただきます。

皆さんこんにちは。教育長の森田でございます。本日はお忙しい中、第1回虹色学園コミュニティ・スクール推進会議に参加していただきありがとうございます。また、委員の皆様におかれましては当推進会議の委員を快くお引き受

け頂き、深く御礼申し上げます。

さて、近年の急激な社会の変化に伴い、子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化している状況があり、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されています。皆様にお配りしたつくば市教育大綱においても、「保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体でこどもの育ちの場を支える。」ことが、いま必要なこととされています。

こうした背景を踏まえ、つくば市では、「コミュニティ・スクール」を導入していくこととしました。「コミュニティ・スクール」は、学校と地域、保護者がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映することで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える「地域とともにある学校づくり」を進めるための仕組みです。また、学校を核とした交流を通して、地域の活性化を期待することもできます。

つくば市では、令和4年度に吾妻学園をモデル地域として先行的にコミュニティ・スクールを導入し、昨年度は8学園、今年度は新たに6学園で導入する計画です。その中で見えてきた課題としては、この仕組みをいかに地域に周知し、市民の方々の理解を得ていくかにあると思っています。そのため、教育局では、出前講座のメニューを新設するなど、「コミュニティ・スクール」の周知に努めているところです。

虹色学園においては、本年度よりコミュニティ・スクールの導入が始まります。皆様には、それぞれの立場から、子どもたちの未来のために何ができるか、意見を出し合っただけいただければと考えています。つくば市の教育のさらなる充実に向け、どうぞ御協力をよろしくお願いいたします。

4 説明事項

事務局：生涯学習推進課 参事 山口より「つくば市コミュニティ・スクールについて御説明させていただきます。

事務局：生涯学習推進課 参事 山口と申します。よろしくお願いいたします。
わたくしのほうからは、

- 1 つくば市の教育が目指すもの
- 2 コミュニティ・スクールとは
- 3 つくば市で進めるコミュニティ・スクールとは

についてご説明いたします。

まず、つくば市の教育が目指すものについて御説明いたします
配布されている教育大綱の冊子を手にとっていただき、1ページをお開きください。つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を送る、ことを最上位の目標に設定しています。次に7ページをお開きください。いま必要なことの中に、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体で子どもたちの育ちの場を支えることを位置づけています。

教育大綱に基づいたコミュニティ・スクールの導入をすることにより、今後地域の多くの人々が学校づくりに参画し、地域と一体となり、地域とともにある

の任用とは、学校とコミュニティ・スクール協議会が実現しようとする教育目標等に合った人材を求めることです。例えば、学年主任ができるリーダー性のある教員や外国語活動に力を入れたいので、授業力のある教員求めることなどです。

④の機能として学校評価があります。委員の皆様と学校の課題について共有したり学校評価について話し合ったりということをしていきます。現在、虹色学園はコミュニティ・スクール推進会議という準備段階の会議となりますが、来年度には協議会という法に基づいた本格設置となります。委員の立場としても特別職の地方公務員となり、スライドにお示ししているような責任のある立場となっていくしますので、御協力をお願いいたします。

先ほど、「熟議」という言葉が出てきましたので、「熟議」について御説明いたします。「熟議」とは、どのような子どもを育てたいのか。何を實現したいのか。という目標・ビジョンを共有するために、「熟慮」と「議論」を重ねることを言います。ひとことで言うと「よくよく、話し合う」ということです。熟議では、テーマに対して、委員それぞれの考えを付箋に記し、模造紙に貼り付けていくというスタイルが多いです。熟議に参加する委員の方が、必ず意見を会議に反映してほしいという意図のもとこのようなスタイルをとっています。

スライドでお示ししているのは、コミュニティ・スクールを自転車に例えたイメージ図です。自転車で例えるならば、協議会で話し合った内容が前輪およびハンドルとなり、「育てたい児童・生徒像」やコミュニティ・スクールの在り方などの方向性を決める役割を担っています。そして後輪には、地域学校協働活動が位置付けられます。地域学校協働活動とは、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動のことです。コミュニティ・スクールでは、前輪の協議会で方向性が決まったものに対して、それを後押しをするように地域と学校が連携して様々な活動を行っていきます。学校の教育活動に対して地域学校協働活動を進めていくことで、この自転車がスムーズに進むようになります。自転車がスムーズに進むようになるときは、今まで以上に学校と地域が連携し、学校を核とした地域づくりにつながっていくはずですが。

地域学校協働活動の例を一つ御紹介いたします。昨年度、吾妻学園では、「ようこそ先輩」という学習において、ゲストティーチャーを地域学校協働活動推進員の方がコーディネートした授業を行いました。このように、地域学校協働活動が活発になると、地域の方々の関わりが、児童生徒の幅広い視野をもつことにつながります。また、地域の方々と関わることで、学校で学んでいることが社会でどのように役立っているかを理解することにもつながります。新しいことをやらなくてもよい運営協議会の中で、何が必要か、何をしていくべきか、地域と学校が熟議し、ともに作り上げていくこと大切です。既存のものをベースに、まずは、「学校理解」「地域理解」から進めていければと思います。

今日お伝えしたいことをまとめます。

①つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を最上位の目標としていること

- ②コミュニティ・スクールは地域とともに子どもを育てる仕組みであること
- ③つくば市のコミュニティ・スクールには4つの機能・役割があること
- ④熟議を通して皆が共有することが大切であるということ
- ⑤地域と学校が連携した様々な活動 地域学校協働活動が始まること
です。

つくばの未来の創り手となる 子どもたちのためにご協力をよろしくお願
いいたします。

以上になります。

事務局：ただ今の件につきまして、意見や質問はありますか。

【質疑応答】

(中川西委員)

- ・学校評議会とは何が違うのか。

(事務局)

- ・学校評議会：学校の評価に対して助言をもらう。

コミュニティ・スクール：学校の内容について、学校と委員とで共通の目標
に向けて、意見を出し合う。熟議をする。学校や地域をつくっていく。

(野尻委員)

- ・サポーターズでは、すでに学校と協力して行っている。

(事務局)

- ・学区の環境に合わせて、地域と協力していく。すでに行っている活動につ
いては今後も続けていってほしい。

5 授業参観

6 座長・副座長の選出

事務局：協議の前に、座長と副座長の選出を行いたいと思います。選出につ
きましては、令和6年度つくば市コミュニティ・スクール推進会議開催要項第6
条第2項に「座長及び副座長は、構成員の互選によって定める」とあります。本
年度については、コミュニティ・スクールを立ち上げていくということもあり、
各校と教育局で協議の上、座長、副座長につきまして提案させていただきたい
と思います。皆様いかがでしょうか。

事務局としては、三田部委員に座長を、中川西委員に副座長お願いしたいと思
いますがいかがでしょうか。

参加委員：(拍手)

7 協議

(1) 学校運営の基本方針について

①学園グランドデザイン

虹色学園の子供たちをどのように育てていくのかについて、学園グランドデ
ザインにまとめた。目標は「みんなの幸せを大切にし、自ら考え行動できる児

童生徒の育成」とし、自分も相手も尊重し合ってほしい。具体的な姿として「研究・探究に主体的に取り組む児童生徒」、「学校の仲間の幸せを大切にする児童生徒」、「くじけず、自立して学校生活を送る児童生徒」という3つの姿の育成を目指していく。この3つをつなぐのは「主体的・対話的で探究的な学びの実現」「非認知能力を育成し、社会的自立を目指す教育活動の推進」「働き方改革の推進による幸せを実感できる学びの場の確立」である。予測困難な昨今において、社会力の育成が急務である。授業においてそれらを意識して取り組んでいるが、コミュニティ・スクールを導入することで、地域の力で補完しながら実現していきたい。

グランドデザインは「自立」と「幸せ」の2つのキーワードをもとに作成した。「中学校を卒業した後に幸せな人生を送ってほしい」、「今の幸せも大切にしてほしい」という願いや思いがある。

(2) 各学校の教育活動の事例の紹介

虹色学園の児童生徒数は、現在約640名である。

学校評価アンケートから：○高評価、●課題

・主体的・対話的で探求的な学び

○学校は子どもたちが意欲的に授業に取り組めるように工夫している。

○学校は子ども同士が学び合い高め合えるような授業づくりをしているか。

●学校は子どもたちに家庭学習の取り組み方を指導している。

・非認知能力の育成

○学校は子どもたちがよいところやがんばったところを認め、自己有用感をもてるようにしている。

●学校は子どもたちが体力向上できるよう努めている。

・社会的自立

○学校はいろいろな友達のよさを実感できるように、教育活動を工夫している。

○学校は子どもたちが楽しく学校に通えるようにしている。

・開かれた学校

○学校は、各種便りなどを通して、子どもたちの教育活動に関する情報提供に努めている。

○学校は、家庭への連絡や意思の疎通などをきめ細やかに行っている。

虹色学園では、9年間の連続した学びを実現するため、行事や学習などに合同で取り組んでいる。施設隣接型の小中学校のよさを生かして、合同でのスポーツフェスティバルや昼休みのドッジボールなどの交流、オープンスペースを活用した主体的・対話的な授業を行っている。このように虹色学園では、子供たち同士が実際に交流することによって、9年間の連続した学びを実現できるようにしている。昨年度はサポーターズの協力のもと、キャリア学習やクリスマスコンサート、除草作業、出前授業など行うことができた。

【質疑応答】

(野尻委員)

- ・ グランドデザインの内容は昨年度から変更があったのか。
- ・ 数値の目標のやり方について考えていることはあるのか。

(岡田校長)

- ・ 開校2年目であるため、昨年度からは大きな変更なし。
- ・ 数値目標については、コミュニティ・スクールで評価の方法について御意見をいただきながら考えていきたい。

(板谷校長)

- ・ 教育効果はすぐに出てこない。継続した教育活動を実践していきたい。

(野尻委員)

- ・ 先生方の働き方について現状はどうか。

(細田教頭)

- ・ かなり遅いという教員はいない。
- ・ 学年で協力しながら、教材研究を行っている。

(小飼教頭)

- ・ 教科によっては1人の教員が3学年分を受けもっているところが大変である。
- ・ 教材研究は大切であるが、タイムマネジメントについて助言していきたい。

各校のグランドデザインに賛同 →全員拍手

(4) その他

次回のコミュニティ・スクール推進会議は令和6年8月6日(火)14時から、第3回は、令和6年11月21日(木)の14時から、第4回は、令和7年2月13日(木)の14時からになります。

7 閉会

本日の協議の内容は以上になります。なお本日の会議の様子や写真について、つくば市ホームページへの掲載を予定しています。

